



熱心に講演を聴く参加者たち

安河内哲也氏は開口一番、「日本民間教育大賞を受賞された先生方、おめでとうございます」と祝辞を述べたあと、大学入試をどのように4技能 (Listening・Reading・Speaking・Writing) 試験に変えていくのか、また、その課題について語ってくれた。

革は戦後最大の民間教育の危機となることをお伝えしておきます。危機と言っても、「危」は危険を意味しますが、「機」はチャンスという意味です。戦後最大の危機であると同時に、戦後最大のビジネスチャンスでもあるのです。

4技能試験では、日本語はまったく使われません。また、文法を直接試す問題は出題されません。もちろん和訳や英訳も出題されません。全部英語です。例えば4技能に30点ずつ均等に点数が配分されるなど、技能が均等に分割されるというテストになります。懸念材料としては、国立大学の2次試験がどうなるか、まだペンディング状態です。しかし今、国立大学の2次試験自体は学力をあまり試さない方向に進む予定のようです。私たちがこの改革に参加しているメンバーの意向としては、国立大学の2次試験では英語力を試さないことを主張しています。

ですから、「大学入試利用者学力評価テスト」及び外部試験を活用して、英語に関して、4技能試験を実施するという方向を目指していくことになるのではないかと思います。

入試対策がそのまま生きた英語教育に

各検定試験のクオリティーは非常に高くなっています。例えば1990年代のTOEFL試験は、マークシートを塗りつぶす2技能のテストでしたが、これはもう、世界のトップ大学では認められなくなりました。今、TOEFLは4技能テストで、インターネットを介したiBTシステムになっており、4技能を統合して試す立体的なテストになっています。

生徒たちに様々なところでアンケートがとられています。中学生・高校生に「4技能の中で一番君が勉強したい技能は何ですか?」と尋ねると、圧倒的に「Speaking」です。生徒たちはSpeakingをやりたいと答えるそうです。多くのやる気に満ちた学校の先生方も、受験対策をやめてSpeakingを教えたいと口にします。

私は、子どもたちに今の学習時間以上に英語を勉強させる必要はないと考えています。今の時間でも多すぎるくらいだ

るわけです。

今の大学入試の英語を見てみると、80%以上の問題が文法・和訳・読解です。Writingが10数%、Listeningが2%以下、Speakingは0(ゼロ)です。

大学入試の英語は4技能試験に替わる

この大学入試の英語を、国は4技能試験に変えていくのですが、どのような行程で変えていくのでしょうか。

まず2020年にはセンター試験は終了し、「大学入試利用者学力評価テスト」と「高校生基礎学力テスト」の2つのテストに替わります。3月17日の文部科学省のとりまとめによれば、この2つのテストの英語科目については、外部試験を活用する、もしくは民間の協同プロジェクトとして4技能試験を立ち上げるという方向で調整されています。

4技能試験に入試を移行することについては、経団連、新経済連盟、国立大、私大、高等学校、中等学校、短大、高専、大学入試センター、主要な民間の試験団体が共同指針を発表しています。そして2020年に4技能試験に移行するということが国の政策として提言されています。

「入試英語4技能時代の民間教育」

記念講演会 第Ⅱ部

講師 安河内哲也氏



安河内哲也氏

・文部科学省「英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員
・一般財団法人実用英語推進機構 代表理事

中学・高校では、英語の授業は英語で行われる

小学校では早くから英語教育が導入されます。現在は5、6年生で週に1時間ずつの英語の授業を行っています。2020年を境に3、4年生で1時間ずつ、そして5、6年生で教科に変わり、最大で週に3時間ずつ授業が行われます。

さらに学習指導要領は、中学・高校では英語を英語で教えるように改正されました。私も、今は、ほとんどの公開授業では、英語で教えていますし、英語で教える英語教育がこれから盛んに行われるようになります。学校現場の先生方も新学習指導要領を研究し、英語で授業を行うということで頑張っています。

今まで、英語教育にこれだけお金と時間をかけているにもかかわらず、日本の高校生の英語力は、どんな指標で見ても、平均すると世界でほぼ最低です。なぜそんなことになるのか、私たちは今こそ真剣に考えなければなりません。

いったい何をすればいいのでしょうか。何が原因でこうなってしまったのでしょうか。皆さんうすうす感じていると思います。しかし、そこにメスを入れるのは、聖域になつていてなかなかできないことだったのです。

もちろん、その原因とは大学入試です。結局塾に通っている子どもたちも保護者も、最終的には大学入試という目的があ

るわけです。

今の大学入試の英語を見てみると、80%以上の問題が文法・和訳・読解です。Writingが10数%、Listeningが2%以下、Speakingは0(ゼロ)です。

大学入試の英語は4技能試験に替わる

この大学入試の英語を、国は4技能試験に変えていくのですが、どのような行程で変えていくのでしょうか。

まず2020年にはセンター試験は終了し、「大学入試利用者学力評価テスト」と「高校生基礎学力テスト」の2つのテストに替わります。3月17日の文部科学省のとりまとめによれば、この2つのテストの英語科目については、外部試験を活用する、もしくは民間の協同プロジェクトとして4技能試験を立ち上げるという方向で調整されています。

4技能試験に入試を移行することについては、経団連、新経済連盟、国立大、私大、高等学校、中等学校、短大、高専、大学入試センター、主要な民間の試験団体が共同指針を発表しています。そして2020年に4技能試験に移行するということが国の政策として提言されています。